



互いの差異を認め合い、弱い立場の人々を包摂するとともに、その過程を通じて新しい価値観を導き、私たちの社会を強くしていこうという動きは、世界的な潮流となっています。そしてそれは、過去の植民地支配などを通じて抑圧されてきた人々に対する認識の変化とも連動しています。

こうした潮流のなかで「文化遺産は誰の、何のためにあるのか」。常に問われるこの問いを今回のシンポジウムでも意識しつつ、多様性をめぐる潮流と文化遺産を掛け合わせて考えます。

金沢大学主催シンポジウム

多様性のなかの文化遺産

Cultural Heritage in Diversity



日時：2022年1月30日（日）

13時～17時（12時30分開場）

場所：金沢大学サテライト・プラザ

3階集会室 ※ 下図参照

参加費無料・コロナ禍により定員先着70名

主催：金沢大学 新学術創成研究機構
文化遺産国際協力ネットワークユニット

共催：金沢大学人間社会研究域附属
古代文明・文化資源学研究センター

連絡先：tryuichi@staff.kanazawa-u.ac.jp（谷川）



プログラム

はじめに：中村 慎一（金沢大学・新学術創成研究機構 機構長 / 教授）

趣旨説明：河合 望（同・教授）・谷川 竜一（同・准教授）

基調講演：「多様化する世界遺産、多様化する課題」
中村 俊介（朝日新聞大阪本社・編集委員）

発表1：「先住民文化遺産に対する認識およびその保護と活用 —— 国際的な動向と日本の取組」
岡田 真弓（北海道大学観光学高等研究センター・准教授）

発表2：「ミュージアムの脱植民地化と文化遺産」
村田 麻里子（関西大学社会学部・教授）

発表3：「宗教遺産の保存と継承 —— 北部九州カトリック教会堂の事例から」
福島 綾子（九州大学芸術工学研究院・准教授）

発表4：「南アジアにおける文化遺産とその特質」
上杉 彰紀（金沢大学 古代文明文化資源学研究センター・特任准教授）

総合ディスカッション

閉会の挨拶：河合 望・谷川 竜一

